



# 道仏北遺跡発掘出土品展Ⅱ



平成24年3月3日(土)～5月6日(日)

宮代町郷土資料館



# 開催にあたって

道仏北遺跡は道仏土地区画整理事業に伴い平成 17 ～ 20 年度にかけて 3 回に渡り発掘調査が実施され、多くの成果をあげることができました。特に宮代町の他の遺跡では余り出土しない縄文時代前期前半から中期初頭（約 6,000 年前～ 4,500 年前）にかけての住居跡などがまとまって検出されたことは、宮代町の歴史に新たな 1 ページが加わる発見といえます。前回の展示会では平成 18 ～ 19 年度の調査地点から出土した土器等を展示したため、今回の展示会は平成 20 年度の道仏土地区画整理地内大型スーパーマーケット建設に伴い出土した土器等を展示いたします。この調査では、現地説明会に宮代町近辺の皆さん約 170 名が見学され、新聞でも報道されました。



全景写真(南側から) 手前が第 10 号住居跡。奥が第 7 号住居跡。その奥が第 6 号住居跡。

## 凡例

- 1 本書は平成 24 年 3 月 3 日(土)から 5 月 6 日(日)にかけて開催される企画展「道仏北遺跡発掘出土品展Ⅱ」の展示図録です。
- 2 本書並びに展示した写真は当館学芸員河井伸一と青木秀雄が撮影いたしました。
- 3 本展の企画及び図録の編集は河井が担当しました。なお、展示については資料館職員等が協力して行いました。

# 道仏北遺跡の位置

道仏北遺跡は宮代町の中央やや南側に位置し、標高 7.0 m の台地上に立地します。遺跡の東 700 メートルには現在古利根川が流れており、この河川の影響により遺跡の所在する台地上には自然堤防の粘土質の土が覆っています。

道仏北遺跡は幅約 65 メートルを要す舌状台地上にあり、その北側には宮代 2 丁目方向からの台地につながります。西側、東側は低地で南側は谷を挟み、平成 18～19 年度地点の舌状台地に繋がります。約 6,000～5,000 年前の縄文時代前期には周囲に海が広がっていました。奥東京湾です。今より海面が 2～3 メートル高かったと推定され、道仏北遺跡の集落とは比高差 4 メートルの急な崖のような状態でした。

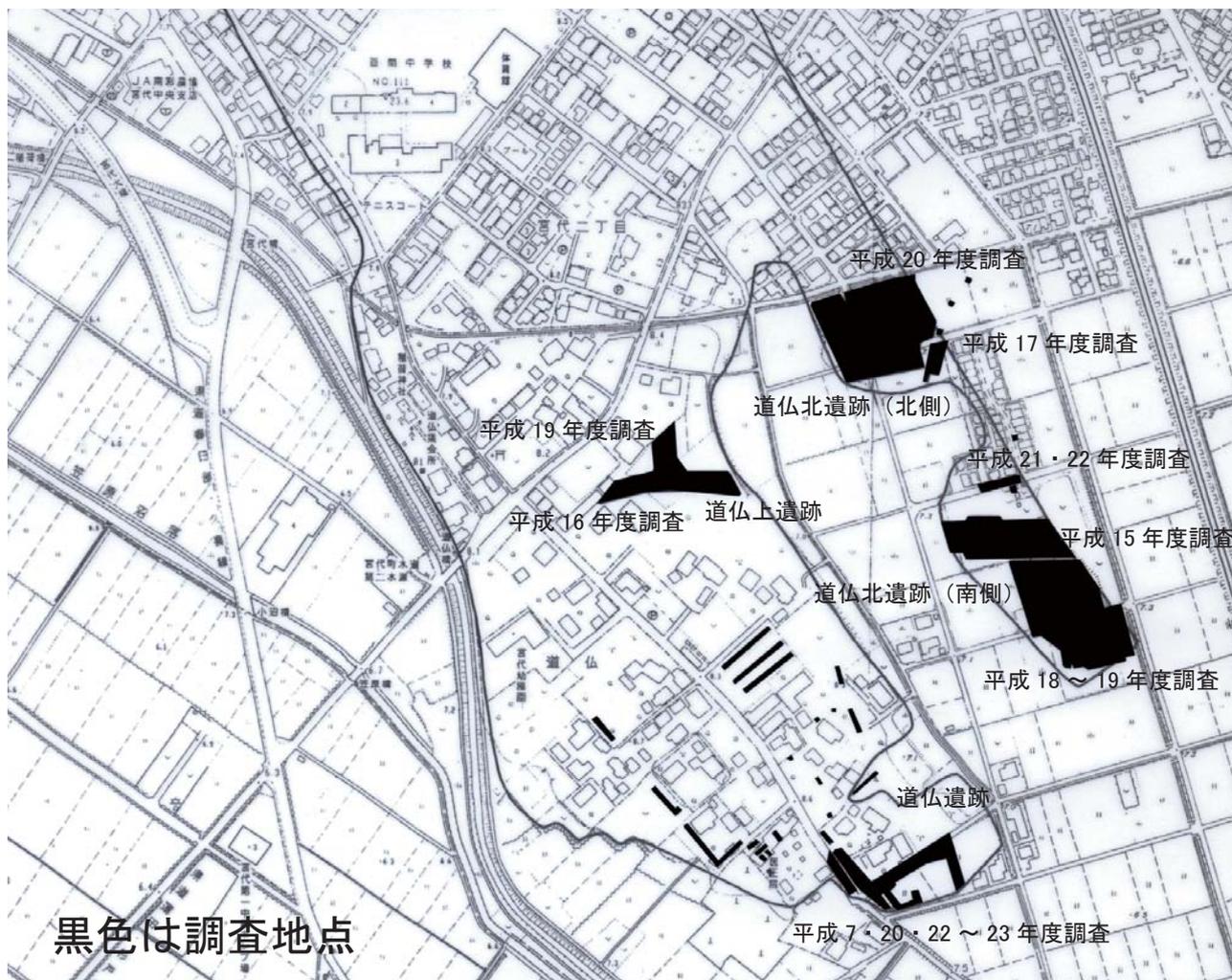


# 道仏北遺跡とは？

道仏北遺跡は谷の存在により、2つの遺跡に分れます。南側の遺跡は平成15、18～19、22年度に調査が行われた場所です。北側の遺跡は平成20年度にスーパーマーケット（カスミ）建設により発掘調査が行われた場所になります。縄文時代早期後半（約7,000年前）では、南北の遺跡で集落が営まれていましたが、縄文時代前期初頭（約6,000年前）では南側の遺跡で、その後は、縄文時代前期中葉（約5,400年前）まで北側の遺跡で集落が営まれていました。縄文時代前期中葉（約5,200年前）になると、北側の遺跡では集落が営まれなく、南側の遺跡で集落が営まれました。縄文時代前期後半（約5,000年前）になると北側の遺跡でも集落が営まれ始めます。その後、南側の集落は消滅し、北側の集落のみ縄文時代中期初頭（約4,700年前）まで集落が存続していたようです。

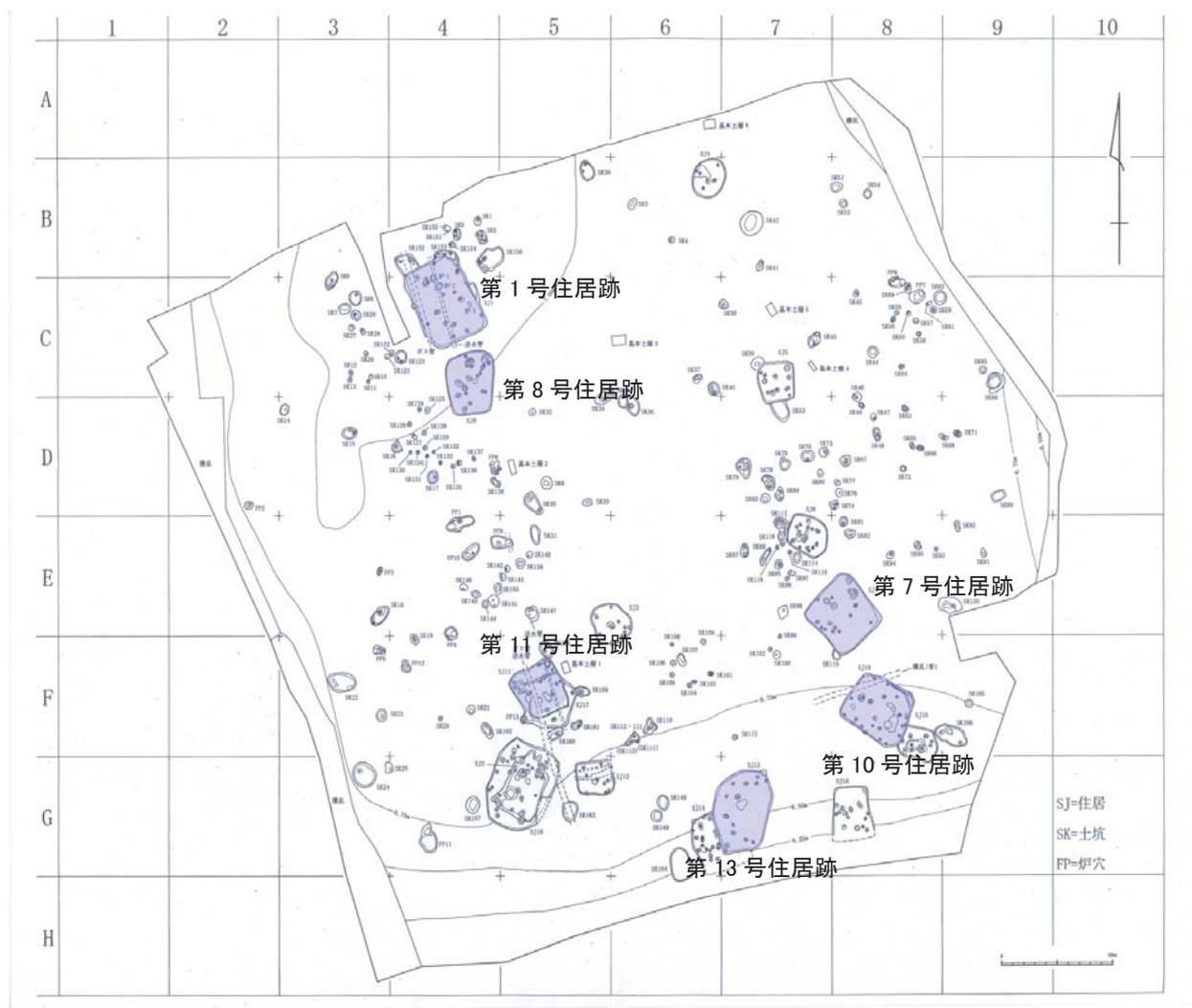
## 道仏北遺跡の発掘調査

道仏北遺跡の発掘調査は、平成15年度の（財）埼玉県埋蔵文化財事業団による県道蓮田杉戸線に伴う調査が最初です。その後、道仏土地区画整理事業に伴い、平成17年度、平成18～19年度、平成20年度、平成21年度の4回延べ14か月に渡り発掘調査が実施されました。発掘調査の結果、平成15年度には住居跡5軒、土坑（当時の人々が掘った穴。貯蔵穴や落とし穴など）35基、平成17年度には土坑が2基、平成18～19年度には住居跡21軒、土坑183基、炉穴（屋外の調理場）9基、平成20年度には住居跡18軒、土坑167基、炉穴13基、平成21年には土坑が15基発掘されました。特に縄文時代早期後半（約7,000年前）から中期前半（約4,500年前）にかけては、宮代町有数の集落が形成されていたと推定されます。縄文時代中期初頭の集落の検出は非常に珍しいことです。



# 縄文時代前期中葉の集落

道仏北遺跡では縄文時代前期中葉の初頭（約 5,400 年前、黒浜 1 式期）の集落が営まれていました。縄文時代前期中葉の遺跡と言えば、蓮田市の黒浜貝塚が有名ですが、黒浜貝塚は比較的新しい段階の土器（黒浜 3 式期）が中心で、道仏北遺跡の様な古手の土器は多くは発掘されていません。その意味でも非常に貴重と言えます。この時期を含む縄文時代前期中葉（約 5,400 ～ 5,100 年前、黒浜式期）の住居跡は 6 軒を数えます。台地縁辺部に沿って、釣り針状に配置されていたので、中央部が集落の広場的な場所であったのでしょう。



縄文時代前期中葉の遺構（住居跡・土坑）

## 第 1 号住居跡

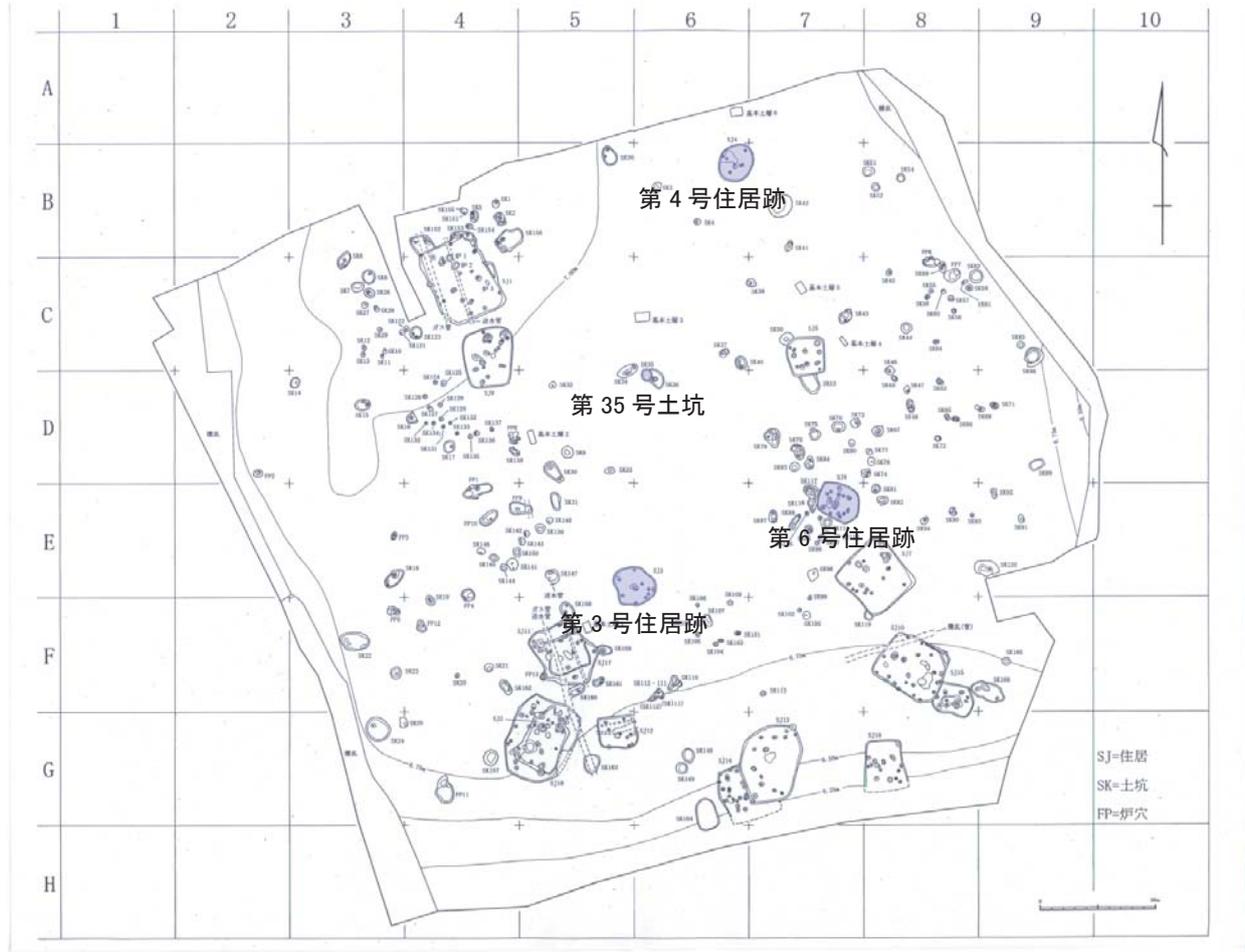
調査区の北側で検出されました。非常に残りの良い住居跡です。床面は張り床で、土間状でした。床面からは、多数の復元可能な土器が出土しています。主要な炉跡は、やや奥壁部で検出されました。柱穴は 16 本以上見つかります。縄文時代前期中葉（約 5,400 年前）の住居跡と推定されます。



# 縄文時代中期初頭の集落

道仏北遺跡では縄文時代中期初頭（約4,700年前、五領ヶ台式期）の集落が発掘されました。この時代の集落が発見されることは、全国的に見ても非常に珍しく、埼玉地区（旧南埼玉郡市、旧北葛飾郡市）では、初めての発見です。

集落の構成は、中央に多量の土器や礫が検出された土坑（第35号土坑）が配置され、周囲に円形の住居跡が3軒（第3・4・6号住居跡）つくられました。



縄文時代中期初頭の遺構（住居跡・土坑）

## ■ 第2・18号住居跡

調査区南東側で検出されました。外側の大きな住居跡（第2号住居跡）が古く、内側の小さな住居跡（第18号住居跡）が新しいです。柱穴は33本検出されました。Pt25では柱穴の底面で打製石斧が置かれたような状態で検出されました。第2号住居跡が縄文時代前期前半（約5,700年前）の住居跡で、第18号住居跡が縄文時代前期終末（約4,800年前）の住居跡と推定されます。



柱穴（Pt25）から出土した石斧

### 第3号住居跡

調査区の中央よりやや西側で検出されました。4本の柱穴で構成される住居跡です。中央部で炉跡が見つかりました。その東側に隣接してPt10が検出されました。このピットは本住居跡で最も深い柱穴です。縄文時代中期初頭（約4,700年前）の住居跡と推定されます。



### 第4号住居跡

調査区の北側で検出されました。小型で丸い住居跡です。中央部からやや北西側にかけて貼り床が検出されましたが、その東側は軟弱な地盤でした。柱穴は6本検出されました。縄文時代中期初頭（約4,700年前）の住居跡と推定されます。



### 第5号住居跡

調査区中央よりやや東側で検出されました。方形の小型の住居跡です。炉跡は南側中央付近で2箇所、柱穴は9本検出されました。Pt8は2つの炉跡の中央部で検出され、一部袋状を呈します。縄文時代前期終末（約4,800年前）の住居跡と推定されます。



### 第6号住居跡

調査区中央よりやや東側で検出されました。方形の小型の住居跡です。炉跡は中央で確認されました。柱穴は17本検出されました。縄文時代中期初頭（約4,700年前）の住居跡と推定されます。



### 第7号住居跡



調査区中央よりやや南東側で検出されました。大型の方形の住居跡です。北側壁近くに2つの炉跡が並びます。床面は非常に硬く土間状でした。柱穴は17本検出されました。覆土からは復元できる多数の土器が出土しました。縄文時代前期中葉（約5,400年前）の住居跡と推定されます。

## 第 8 号住居跡

調査区北側で検出されました。概ね長方形を呈します。柱穴は 15 本検出されました。床面は固められていました。縄文時代前期中葉(約 5,400 年前)の住居跡と推定されます。



## 第 9・11・17 号住居跡

調査区の南西側で検出された。本住居跡群は 3 軒の住居跡の重複と考えられます。最も新しい住居跡は中央の方形の住居跡で第 9 号住居跡です。遺構確認の段階から把握出来たほど、第 11・17 号住居跡の覆土とは相違していました。縄文時代前期終末(約 4,800 年前)の住居跡と推定されます。

南側の第 17 号住居跡は、方形の住居跡で縄文時代前期後半(約 4,900 年前)と住居跡と推定されます。北側の第 11 号住居跡も方形の住居跡で、復元可能な個体土器が出土しているため、縄文時代前期中葉(約 5,400 年前)の住居跡と推定されます。



## 第 10 号住居跡

調査区南東側で検出されました。大型で方形の住居跡です。床面は張り床が顕著で土間状でした。炉跡は 3 箇所確認され、北側の炉跡 1 は埋甕炉でした。その南側には深さ 65 cm を測る柱穴 (Pt6) が検出されました。この柱穴は袋状を呈しています。柱穴は 22 本検出されました。埋甕炉の炉体土器は胴部上半のみで下半は欠損していました。復元が可能な土器が数個体検出されました。出土した炭化材を分析した結果、約 5,400 年前のものだと判明しました。縄文時代前期中葉(約 5,400 年前)の住居跡と推定されます。



埋甕炉

## 第 12 号住居跡

調査区南西側で検出されました。小型で方形の住居跡です。柱穴は 13 本検出されました。中央部からやや南側で炉跡が検出されました。縄文時代早期後半（約 7,000 年前）の住居跡と推定されます。



## 第 13・14 号住居跡

第 13 号住居跡（右側）は、調査区南側で検出されました。長方形で大型の住居跡です。第 14 号住居跡と重複しますが、本住居跡の方が新しいです。床面は張り床はそれほど顕著ではありませんでした。炉跡は中央やや北よりで 1 箇所確認されました。柱穴は 15 本検出されましたが、一部は第 14 号住居跡のものと推定されます。復元が可能な土器も検出されました。縄文時代前期中葉（約 5,200 年前）の住居跡と推定されます。



第 14 号住居跡（左側）は、調査区の南側で検出されました。第 13 号住居跡と重複しますが、本住居跡の方が古いです。柱穴は 17 本検出されましたが、重複する第 13 号住居跡からも本住居跡に伴う柱穴があると推定されます。炉跡は確認できませんでした。縄文時代前期前半（約 5,700 年前）の住居跡と推定されます。

## 第 15 号住居跡

調査区の南東側で検出されました。第 10 号住居跡や第 167 号土坑と重複しますが、本住居跡が最も古いです。柱穴は 8 本検出されました。縄文時代早期後半（約 7,000 年前）の住居跡と推定されます。



## 第 16 号住居跡

調査区南東側で検出されました。長方形の住居跡です。柱穴は15本検出されました。炉跡は確認されませんでした。縄文時代前期後半（約4,900年前）の住居跡と推定されます。



## 土坑

土坑とは、墓穴やゴミ捨て穴、落とし穴などの当時の人々が掘った穴のことを言います。平成20年度の道仏北遺跡では、土坑は小さな柱穴状のピットを含め167基ほど検出されました。ことに、調査区東側と西側の住居跡周囲にU字状に纏まって検出されています。大型の復元できる土器が出土したのは第17号土坑と第35号土坑でした。第17号土坑は第8号住居跡と第11号住居跡との間やや大型の土坑が纏まって確認されている場所で検出されました。出土遺物は縄文時代前期中葉黒浜1式土器（約5,400年前）が出土しました。

## 第 35 号土坑

第35号土坑は調査区中央部の遺構が非常に少ない地点で検出されました。本土坑からは礫や石皿等の石器類や形の復元できる縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器が出土しました。石器類や土器を取り上げると多量の石が纏まって出土しました。石には熱を受けた跡なども残り、祭祀に伴う遺構の可能性が高いと推定されます。

この土坑を中心に第3・4・6号土坑が配置され、縄文時代中期初頭（約4,700年前）の集落が営まれていました。中央広場にあった第35号土坑を中心にお祭りが連日開かれていたのでしょうか。



獸面把手

## 出土した縄文土器



中期初頭の土器  
(第35号土坑)



前期中葉の土器  
(第1号住居跡)



前期中葉の土器  
(第10号住居跡)

## 縄文時代の時代区分

時代区分	年代	土器の形式	時代区分	年代	土器の形式
早期後半	約7000年前	条痕文式	中期初頭	約4700年前	五領ヶ台式
前期初頭	約6000年前	花積下層式	中期中葉	約4500年前	勝坂式、阿玉台式
前期前半	約5700年前	関山式	中期後半	約4000年前	加曾利E式
前期中葉	約5400年前	黒浜1式	後期初頭	約3900年前	称名寺式
前期中葉	約5200年前	黒浜3式	後期前半	約3700年前	堀之内式
前期後半	約5000年前	諸磯a式	後期中葉	約3500年前	加曾利B式
前期後半	約4900年前	諸磯b式、浮島II式	後期後半	約3200年前	安行1式、安行2式
前期終末	約4800年前	諸磯c式、浮島III式、興津式、十三菩提式	晩期	約3000年前	安行3a式～安行3d式

## 新聞から見た道仏北遺跡



縄文前期の道仏北遺跡で現地説明会

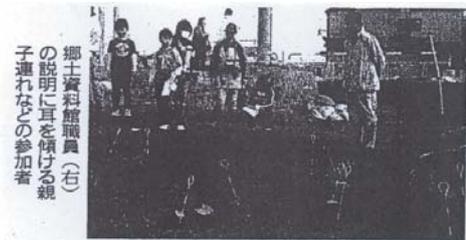
約6000年前の縄文時代前期の住居跡や土器類が数多く見つかった道仏北遺跡。宮代町

15日、宮代町教育委員会は十五日午前10時から正午まで、縄文時代の集落跡が数多く発掘されている同町の道仏(どぶつ)北遺跡の現地説明会を開く。

道仏地区区画整理地内の発掘と遺物の見学がある。無料で。現地集合。雨天中止。問い合わせは町郷土資料館(☎04800・34・8888)へ。(菊地正志)

上、左 埼玉新聞  
平成21年2月12日号  
現地説明会開催案内の記事

右 読売新聞  
平成21年2月16日号  
現地説明会の記事



郷土資料館職員(右)の説明に耳を傾ける親子連れなどの参加者

### 宮代の遺跡 170人見学会

宮代町道仏の「道仏北遺跡」の発掘現場で15日、見学会が開かれ、県民ら約170人が参加した。東武伊勢崎線姫宮駅の北側に広がる道仏北遺跡は、土地区画整理事業により、2005年から発掘が進め

られている。これまで、縄文時代と古墳時代の集落が見つかっている。この日は、昨年9月から今月にかけて発掘が行われた約4000平方メートル、約5000～5500年前の縄文時代前期などに作られた住居14軒や屋外で火をたいた炉穴11基の跡などが公開された。参加者は、宮代町郷土資料館の職員から「土の色で住居、炉の場所を特定できる」などと説明を受けた。同

町学園台の主婦武笠由紀子さん(40)は「意外に住居が小さい。何人家族だったのかしら」と興味深げに遺跡を見渡していた。同資料館では4月19日まで、道仏北遺跡など県東部の約25遺跡から出土した土器や埴輪など約300点を展示している。問い合わせは、同資料館(04800・34・8888)。



現地説明会の風景



現地説明会の風景

発行 宮代町郷土資料館  
住所 南埼玉郡宮代町字西原 289  
TEL 0480-34-8882  
FAX 0480-32-5601  
<http://www.town.miyashiro.saitama.jp>